

FULFILLED 31

SARGO 31 Aft Door

フィンランド生まれの「SARGO(サルゴ)」は、とても積極的な海外展開を行っているビルダーである。ヨーロッパ各国はもちろん、日本のマーケットでも長年にわたりインポータを務める「オカザキヨット」の尽力により、前身の「MINOR(ミノア)」ブランドも含めた「SARGO」の数はかなり増えてきた。耐候性や操作性の素晴らしさだけでなく、このブランド最大の魅力はユーザビリティを考えたボート造り。フィンランドならではのボート環境から生み出されたさまざまな意匠は非常に良く考えられている。新たに日本に上陸した「SARGO 31 Aft Door」もそんな一艇。年々、熟成度を上げる素晴らしいモデルだ。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada
special thanks: OKAZAKI YACHTS <http://okazaki.yachts.co.jp>



非常にバランスの良い走行姿勢で走る「SARGO 31 Aft Door」。電子制御となったステアリング&スロットルコントロールにより操作性は軽く、340馬力シングルエンジンと艇体のバランスも素晴らしい。



電子制御エンジンのスムーズな操作性に3ドア仕様パイロットハウスの使いやすさ ひととき充実の本格的ギャレーも装備した、充実の「SARGO 31 アフトドア」モデル

前傾したフロントウィンドウが象徴的な北欧フィンランドのパイロットハウスボート「SARGO (サルゴ)」は、これまでに数多くのモデルが輸入されてきた。今回紹介するのは「SARGO 31 Aft Door (サルゴ31アフトドア)」で、31フィートのSARGOとしては2018年にも本誌で2度紹介している。一つ目は「SARGO 31」(2018年4月号)、もう一つは「SARGO 31 Explorer」(同10月号)、ともに洗めのカラーリングとインテリアを持つExplorerエディションで、今回紹介する「31 Aft Door」は、前者のアフトドアモデルとなる。



*

横浜ベイサイドマリーナのビジター桟橋に係留された「SARGO 31 Aft

Door」。搭載されているエンジンはシングルのスターンドライブVOLVO PENTA D6-340DPI (340馬力)である。パウスラスターを効かせて桟橋を離れ、ゆっくりとマリーナ内を進む。以前も感じたことだがSARGOの室内はとて静かだ。加速中も、ドアや窓を閉じた状態であれば普通に会話できるレベル。また全方向の視界の良さもさすがフィンボートで、良く考えて作られている。

搭載されたVOLVO PENTAの「DPI」エンジンは、ステアリング&スロットルコントロールが電子制御となったモデル。そのためスピードデータを取る際にもぴったりの回転数に合わせられる。1,000rpmで5.5ノット、1,400rpmで7.4ノット、1,700rpmくらいからターボが効き始め、1,800rpmで9.2ノット、2,200rpmで12.6



ノット、2,600rpmで20.5ノットと一気に加速。3,000rpmで25.9ノット、3,200rpmで28.9ノットに達する。その後、トリムアップさせると3,350rpmまで回り、この日のトップスピード30.5ノットを記録した。

驚かされたのは、このDPIエンジンの軽快さ。電子制御のスロットルとステアリングは操作性が軽く、高速スラロームを実施しても、ステアリングを反転させる際に無駄な力が要らない。負荷がほとんどかからないため長時間操船する場合などにも身体に優しく、これは非常に良い。そしてこの340馬力シングルエンジンと、「31 Aft Door」のバランスが素晴らしい。スラローム中もスムーズな傾きと素晴らしい波切りで、いやな音や衝撃は皆無。フィンポートらしい艇体剛性を感じさせてくれた。なおエンジンバリエーションは、シングルで340馬力～440馬力(いずれもVOLVO PENTA D6)、ツインで300馬力(D4)となる。

*

従来モデルに比べて大きく変わった点は、パイロットハウス後端にアフトドアが設けられたこと。それに伴い、室内のレイアウトが大幅に変わっている。パイロットハウス内の右寄りにウォークスルーが設けられ、右舷前部の



ベンチシートに囲まれたアフトデッキは安心感が高く、テーブルを設置すればマリナーステイはさらに充実したものになる。フェンダー6個をスマートに収納できるレールも秀逸。

ドライバーシートはシングル1脚のみに、パッセンジャーシートは左舷側にベンチ式となった。また両側のスライドドアは従来モデルでは左舷側が後ろ寄りにセットされていたが、「31 Aft Door」は両舷とも同じ位置に設けられ、パイロットハウス内の動線はシンプルかつ移動しやすくなっている。スライディングルーフの構造が変わり、操作が軽くなったことも特筆すべき点だ。



ウォークアラウンド&両舷スライドドアのパイロットハウスというフィンポートスタイル。広々としたサイドデッキが歩きやすい。スライディングルーフの構造は従来モデルから変更され操作感も軽くなった。エンジンはVOLVO PENTA D6-340馬力を1基。D4を2基搭載可能なスペースのため、メンテナンス性は非常に良好。広いイミジングプラットフォームにはインスペクションハッチがあり、プロペラのトラブルにも対応しやすい。

明るいイメージの室内。パッセンジャーシートの背もたれは反転可能で、L字型ソファと一体化できる。右舷のドライバーシートからの視界は良好で、ステアリングのチルトだけでなくコンソール自体の角度も可変、自分に合ったポジションを選べる。両サイドのドアの位置は左右で同じになり、右舷カウンターには本格的なシンク&ギャラーを配置。アフトドアの横に跳ね上げ式の窓も設けられた。



後部は右舷にシンク&ギャレーのカウンター、左舷にL字型のダイネットを配置。パッセンジャーシートを背もたれを前に倒せば、コの字型のダイネットとなる。さらに、ギャレーは3つ口コンロにダブルシンク、オープンがビルトインされた本格的な料理ができるものとなり、ゲストへのサーブも良好なレイアウト。簡易的なシンクのみだった従来モデルから大きく変わり、マリナーズステイがいちだと楽しいボートになった。

またアフトデッキも、パイロットハウスのドアに合わせトランサムドアが右寄りにずらされ、左舷側はL字型のベンチシートに変更。ベンチシートとレールに囲まれたアフトデッキは安心感が高く、キャプテンに扱いやすく、ゲストの出入りもしやすい3ドア仕様となった。

ナイトスペースは従来通りフォアとミジップの2箇所。ツインベッドのフォアキャビンとヘッドルームへはドライバーズシート脇中央のドアからア



クセス、ロアのみジップキャビンへはL字型ソファの後部を跳ね上げると潜り込める。変更されたミジップキャビンはダブルベッドがほぼ中央に配され、頭部には採光のための大型ウィンドウを設置、ベッド手前のスペースも広がった。31フィートながらパイロットハウス内に2つのキャビン、ダブルとツインのベッドを備え、ソファでの就寝まで含めば大人6名がナイトステイできる広さがある。

年々熟成度を上げる「SARGO」、とくに今回のアフトドアモデルでは、見た目の変化以上に大幅な使い勝手の向上が図られている。常にユーザーの使い勝手を考える、作り手の真摯な姿が思い浮かぶようだ。P.B.



フォアキャビンはV字型のツインベッド仕様、中央にマットをはめればダブルベッドにもなる。個室のヘッドルームはフォアキャビンの手前に配置。対面には小物を置ける棚とハンギングロッカーが上手に設けられている。L字型ソファの脇からアクセスするミジップキャビンはダブルベッド仕様だ。

SARGO 31

全長 9.96 m
 全幅 3.30 m
 喫水 1.05 m
 重量 5.10 ton
 エンジン VOLVO PENTA D6-340 DPI
 最高出力 340 HP
 燃料タンク 500 L
 清水タンク 120 L
 問い合わせ先 オカザキヨット
 TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502
<http://okazaki.yachts.co.jp>



vimeo YouTube